



秋がずいぶん短くなったような気がしています。環境保護にどう向き合うのか悩みます。

情けは人の為ならず

朝、地域の交通指導員の方々や民生児童委員の方々、PTAの方々などたくさんの方々に見守られながら子どもたちは学校へ登校してきます。本当に感謝の言葉しかありません。登校だけではなく、様々な場面で支えられ、時には叱咤激励を受けながら子どもたちは大きく成長しているんだと実感します。



そんなある日、私は日ごろからのあいさつとともに日ごろからの感謝の言葉を述べたところ、意外な言葉が返ってきました。

「いや、先生。お陰様で子どもたちに元気をもらっています。ありがとうございます。」
なんと…

感謝される側の方々なのに、感謝の言葉が生まれるこの素晴らしさ。本当に、頭が下がります。

ふと、古い映画を思い出しました。その映画は「ペイ・フォワード 可能の王国」(キャサリン・ライアン・ハイド原作、ミミ・レダー監督、ワーナーブラザーズ配給、2001年日本公開)。少々あらすじを。社会科の授業でシモネット先生から「もし自分の手で世界を変えたいと思ったら、何をする?」という課題が生徒に与えられました。様々な提案が出される中、主人公のトレバーは「ペイ・フォワード」という活動を提案します。自分が受けた善意や思いやりをその相手に返すのではなく、別の3人に渡すというものだった。・・・

この先のネタバレはもちろん慎みますが、心から素晴らしい提案だと教師になりたての私は強く思いました。

「情けは人の為ならず」という日本に古くから伝わるこのことわざのもつ意味も、この映画のような意味だと知ったのは、恥ずかしながら同じころでした。情け(や思いやり)は、人のためにならないと言っているのかな?なんかピンとこないことわざだなあ。しかし、本当の意味は、「情けは人のためではなく、まわりまわって自分のもとに戻ってくる。ひごろから相手に思いやりをもって過ごしましょうね」という意味ですよ。

我々の先人は、国の違いはあれど、自分以外の他者を思いやり、慈しみ、必要であれば自分以上に大切にするという情けを持っていたのでしょ。翻って、世間をみると、数々の紛争やヘイトスピーチなど、どうしてもその行為に疑問を持たざるを得ない出来事がある。

もちろん、他者を自分のことのように思うことは簡単なことではないでしょう。ただ、そう思うことが良いことなんだと思える、そんな人になりたいなあと、そんな榎木っ子であってほしいな、と月並みだけども思います。そして、地域の交通指導員の方々含め、子どもたちを支えてくださっているすべての方々への感謝の意を改めて伝えたいと思った次第です。

